

猪名川上流広域ごみ処理施設
環 境 保 全 委 員 会

第 5 7 回委員会会議録

令和元年6月25日

猪名川上流広域ごみ処理施設組合

猪名川上流広域ごみ処理施設環境保全委員会 第57回委員会会議録

1. 日時：令和元年6月25日（火） 18：33～19：20

2. 場所：川西市役所 4階 庁議室

3. 出席者 (◎委員長、○副委員長)

学識経験者	◎吉田 篤正	大阪府立大学大学院工学研究科教授
学識経験者	中嶋 鴻毅	元大阪工業大学情報科学部情報メディア学科教授
学識経験者	原田 正史	大阪市立大学大学院医学研究科特任教授 (欠)
学識経験者	服部 保	兵庫県立大学自然・環境科学研究所名誉教授
学識経験者	○尾崎 博明	大阪産業大学工学部都市創造工学科教授
学識経験者	渡辺 信久	大阪工業大学工学部環境工学科教授
周辺地域住民代表	清水 正克	国崎自治会
周辺地域住民代表	鈴木 啓祐	猪名川漁業協同組合
周辺地域住民代表	北野 正	黒川・新滝地区 (欠)
周辺地域住民代表	倉脇 也寸志	田尻下区
周辺地域住民代表	久保 文昌	野間出野区
組合区域住民	奥山 道夫	川西市在住
組合区域住民	藤本 由美子	川西市在住
組合区域住民	森口 久美子	川西市在住
組合区域住民	佐野 和美	猪名川町在住
組合区域住民	中野 仁	豊能町在住
組合区域住民	難波 希美子	能勢町在住
関係行政職員等	木下 勝功	阪神北県民局
関係行政職員等	後藤 浩一	水資源機構
関係行政職員等	岡本 勝	川西市
関係行政職員等	澤 宣伸	猪名川町
関係行政職員等	森嶋 正己	豊能町
関係行政職員等	前田 博之	能勢町
事務局	吉川 泰光	施設組合事務局長
事務局	栢川 隆雄	施設組合事務局次長兼総務課長
事務局	中村 勤	施設組合事務局施設管理課長
事務局	堀 伸介	施設組合事務局施設管理課主幹

+

4. 配付資料

- ・第56回環境保全委員会会議録について（資料1）
- ・第57回環境保全委員会調査結果の概要
- ・排出源モニタリング
 - ①大気質（資料2-1）
 - ②水質（資料2-2）
 - ③処分対象物（資料2-3）
- ・環境モニタリング
 - ①大気調査（3回目）（資料3-1）
 - ②底質調査（2回目）（資料3-2）
 - ③水質調査（資料3-3）
 - ④哺乳類調査（資料3-4）
 - ⑤コウモリ調査（資料3-5）

その他

5. 次第

1 議事

- (1) 第56回環境保全委員会会議録について（資料1）
- (2) 環境影響調査結果について
 - 2) - 1 排出源モニタリング
 - ①大気質（資料2-1）
 - ②水質（資料2-2）
 - ③処分対象物（資料2-3）
 - 2) - 2 環境モニタリング
 - ①大気調査（3回目）（資料3-1）
 - ②底質検査（2回目）（資料3-2）
 - ③水質調査（資料3-3）
 - ④哺乳類調査（資料3-4）
 - ⑤コウモリ調査（資料3-5）

2 その他

開 会 18時33分

○事務局

皆さん、こんばんは。

それでは定刻を少し回りましたが、第57回猪名川上流広域ごみ処理施設環境保全委員会を開会させていただきます。

本日は大変お忙しい中、環境保全委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。議事に先立ちまして、委員及び事務局に異動がございましたので、ご報告させていただきます。平成31年4月1日現在の委員名簿を机上のほうに配付させていただいておりますので、ご参考に見ていただけたらと思います。

まず、関係行政機関であります阪神北県民局から木下様、また川西市からは岡本様、猪名川町から澤様にそれぞれご就任いただいておりますので、ご紹介させていただきます。

それでは、木下委員、岡本委員、澤委員の順番で一言ずつ、自己紹介をお願いします。

○委員

失礼いたします。ただいまご紹介にあずかりました阪神北県民局環境参事をしております木下と申します。前任の高石の退職に伴いまして、私が4月1日から就任しております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○委員

失礼いたします。川西市市民環境部参事兼環境衛生課長の岡本でございます。よろしくお願いいたします。前任者、枅川に代わりまして、今年の4月1日から現職になっております。よろしくお願いいたします。

○委員

失礼いたします。猪名川町産業観光課課長をしております、澤でございます。前任者は曾野でございましたが、前任者が地域振興部の部長となりましたので、私、4月から担当しております。よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。次に、事務局の異動につきまして、ご報告させていただきます。

施設管理課長の前任者岡崎の退職に伴いまして、中村が施設管理課長に、また4月から新たに堀が主幹として業務についておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○施設管理課長

中村です、よろしくお願いいたします。

○主幹

堀でございます、どうぞよろしくお願いいたします。

+

○事務局

続きまして、委員の出欠でございます。学識経験者の原田委員、周辺地域住民代表の北野委員が欠席ということで連絡をいただいております。また、服部委員が、10分程遅れるというご連絡をいただいておりますので、ご報告させていただきます。

また、本日、施設の管理運営業務を委託しておりますJFEエンジニアリング株式会社、そして環境影響調査業務を委託しております株式会社オオバが出席しておりますので、ご報告させていただきます。

続きまして、資料等の確認をさせていただきます。本日の会議資料につきましては、事前に郵送をさせていただいております。レジュメの次に、前回の第56回委員会の会議録がございます。その次に、A4、1枚もの、調査結果の概要で、その後ろに、ホチキスどめで資料2と資料3が1冊になっております。排出源モニタリング資料として、資料2-1、大気質中間報告が8ページ、資料2-2、水質中間報告が5ページ、資料2-3、処分対象物中間報告が3ページ、環境モニタリングの資料といたしまして、資料3-1、大気質調査中間報告（3回目）が18ページ、資料3-2、底質調査中間報告（2回目）が8ページ、資料3-3、水質調査中間報告（3回目）が4ページ、資料3-4、動植物調査結果報告（哺乳類調査）が15ページ、資料3-5、動植物調査結果報告（コウモリ類調査）15ページとなっております。その後ろに、資料4といたしまして、ダイオキシン類総排出量計算書、最後に資料5として気象庁降雨量データをつけさせていただいております。

そして、配付させていただいている分の他に、今回、資料の追加と訂正がございまして、4カ所ほどございますので、ご確認をお願いいたします。

1つ目は、資料2-1、排出源モニタリングの大気質2-1-2ページでございます。訂正させていただきました資料を机上に配付させていただいております。表がついたもので、資料2-1というのが左肩についておる分なんですけど、訂正部分は資料2-1-2、裏側のほうになりますけども、排ガス全般の表、下から3段目、総水銀濃度の欄で、単位に間違いがございました。郵送いたしました資料では mg/m^3 (N) となっておりますが、正しくは $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (N) ということになっておりますので、その資料の差し替えをお願いいたします。それと、水銀のところの右端、自主基準値のところは0.05以下となっておりますが、正しくは50以下という数字でございます。

2つ目でございます。資料3-4でございます。動植物調査結果報告（哺乳類調査）のところ、最終ページ、3-4-16のページの追加をお願いいたします。この分につきましては、配付資料として付けさせていただいております写真が1枚ついた資料がございます、それを間に挟んでいただけたらと思います。そのページが3-4-16ということになりま

す。この内容につきましては、フィールドサイン法により確認したハクビシンの足跡の写真でございます。

また、この関係で、3-4-6ページのところをご覧いただきたいと思います。3-4-6ページの図の2、哺乳類確認位置図でございますが、横向けで見ていただく形になるんですが、その中で、一番右端のところのやや真ん中ぐらいのところ、ちょっと飛び出したところがあるんですが、そこに◇のマークの中に黒点が入っているところで、5というのが書いてあります。これが、この◇の丸の点があったところの4と、5が4というふうな正確な形になってございます。内容としましては、糞ということになっていますが、足跡というのが正しい表記になりますので、◇の中の黒点の5というのを、◇の黒点の4という形をお願いいたします。

3つ目、資料3-5、動植物調査結果報告（コウモリ類調査）で、3-5-5ページになります。表4の下段の右端、平成31年2月の数値でございます。ここの表では143となっておりますが、正しくは141でございます。キクガシラコウモリの平成31年2月の部分が、現在143ということになっております。これが141というのが正しい。ページ3-5-5です。表が2つ、真ん中にあるんですが、下のほうの表の一番右端、平成31年2月のところ、キクガシラコウモリの欄ですけれども、その部分の143というのが141でございます。そして、その縦軸のところの一番下、147となっておりますけれども、足し算いたしますと145になりますので、147を145ということをお願いいたします。

最後ですけれども、4つ目、資料4-5でございます。図面がございまして、その図面の右下の表の中でございます。排ガス基準の表の中で、下から3段目、この表の中の一番右端の下から3段目になります。総水銀の欄で、右端、法規制基準等の部分でございます。規制なしという形になっておりますが、平成30年4月の法改正によりまして、基準値が適用されております。正しくは、 $50\mu\text{g}/\text{m}^3$ (N) というのが正解でございます。

この分につきましては、配付させていただいております資料で、1枚ものが追加でつけさせていただいております。この図は、施設案内用のパンフレットをコピーしておりまして、パンフレットの配布時にはお手元に配付させていただいておりますこの用紙、訂正文を挟み込みましてお知らせさせていただいているものでございます。

訂正につきましては、以上でございます。よろしくをお願いいたします。

資料の確認は以上でございますが、不足等はございませんでしょうか。

そうしましたら、委員長、今から議事のほう、進行をお願いいたします。

◎委員長

それでは、議事のほう、始めさせていただきたいと思います。訂正のほうはよろしいでしょうか。

それではまず、議事の1つ目ですが、前回の会議録が資料1についております。確認、あるいは必要であれば修正が入っていると思いますが、よろしいでしょうか。

○事務局

この会議録につきましては、委員さんにも会議録を確認していただいております。委員等から修正の申し出をいただいた分につきましては、字句等を訂正させていただいて反映させていただいております。

以上でございます。

◎委員長

皆さん、もう一度見ていただいて、何かお気づきの点ございますでしょうか。特になければ、この会議録で進まさせていただきます。

それでは、2の環境影響調査結果についてということで、まず排出源モニタリングからご説明のほう、よろしく願いいたします。

○事務局

それでは、環境影響調査について、ご説明させていただきます。会議録の次のページに、調査結果の概要といたしまして、今回ご報告させていただきます排出源及び環境モニタリングの調査結果を取りまとめております。なお、今回の排出源及び環境モニタリングの調査結果につきまして、事務局で結果を見る限り、注意を必要とするポイントは見当たりませんでした。

また、ご説明させていただく資料については、事前に当委員会の学識経験者評価部会の委員の方々に資料を送付し確認をしていただきましたが、今回の調査結果に対しまして、ご意見等はいただいておりますことをご報告申し上げます。

まず、環境影響調査の排出源モニタリング結果について、資料に沿ってご説明をさせていただきます。

資料2-1の大気質中間報告をご覧ください。2-1-1ページに調査内容と調査結果の概要を、次のページ、2ページから8ページは調査結果となっております。2-1-2ページに戻りまして、排ガス全般の調査につきましては、平成31年2月15日に実施いたしまして、調査した全ての項目において、自主基準値以下となっております。

ページを少し飛びまして、2-3-3ページをご覧ください。こちらに排ガス調査におけるダイオキシン類測定値変動グラフをつけており、グラフの下は1号炉及び2号炉の活性炭交換時期を記載しております。

2番目に水質調査でございます。資料2-2をご覧ください。2-2-1ページには調査内容と調査結果の概要を、次のページ、2ページは下水道放流水の調査結果を、3ページは雨水排出水の調査結果を、4ページに盛土部浸透水の調査結果を、5ページには図1として、それぞれの採水地点を示しております。

2-2-2ページに戻りまして、下水道放流水の水質につきましては、平成31年1月8日、2月8日、3月1日に調査を行い、全ての項目において基準値以下となっております。雨水排出水の水質につきましては、平成31年1月31日と2月19日に調査し、盛土部浸透水につきましては2月19日に調査し、全ての項目において、参考値の水質汚濁防止法排水基準値以下でございました。

3番目に、処分対象物でございます。資料2-3をご覧ください。2-3-1ページには調査内容と調査結果の概要を、次のページ、2ページには調査結果となっております。

溶融スラグ及び溶融飛灰固化物は、有効活用するため再資源化事業者へ引き渡していることから基準の適用はございません。溶融スラグにつきましては、土木資材などとして売却しており、また溶融飛灰固化物については、山元還元業者に引き渡しております。

環境影響調査の排出源モニタリング結果についての説明は以上でございます。

◎委員長

はい、ありがとうございました。ただいま、ご説明いただきましたが、何かご質問あるいはご指摘の点、ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。特にございませんか。それでは、続きまして、環境モニタリングにつきましてご説明のほう、よろしく願いいたします。はい、よろしく願いします。

○事務局

それでは、環境モニタリング結果についてご説明いたします。

まず、3回目の大気質調査でございます。資料3-1をご覧ください。3-1-1ページに調査概要を、次のページ、2ページには図1-1として大気質調査地点位置図を、3ページには測定方法と調査期間を、4ページから18ページには調査結果となっております。

3-1-4ページに戻りまして、7日間連続測定は、平成31年2月25日0時から3月3日の24時までの間で実施いたしましたところ、全調査地点において全ての項目で環境基準値を下回る値となっております。

3-1-5ページの1検体測定項目につきましては、環境基準等が定められている項目については、全調査地点において環境基準等を満足した結果でございました。

6ページより後ろは、各地点別の結果となっております。

2番目に、底質調査の2回目についてでございます。資料は3-2をご覧ください。3-

2-1 ページに調査概要、測定方法及び調査時期を、次のページ、2 ページには図 1-1 と
して底質調査地点位置図を、3 ページから 8 ページが調査結果となっております。

調査は、平成 31 年 2 月 7 日に実施いたしました。3-2-3 ページに戻りまして、基準
値が設定されている総水銀、PCB、ダイオキシン類についての分析結果は、いずれも基準
を満たす値となっております。

地点 W-12（新こうじ橋上流）での鉛の含有量が多少高かったものの、他の増加傾向は
認められませんでした。

これまでにおきましても、銅や鉛など幾度か高い値を検出することがございましたが、周
辺には多数の坑道跡が存在していることなど多金属を含む地層が存在しており、鉱石の堆積
等による影響と考えております。

3-2-7 ページをお開きいただきまして、底質の粒度組成は一定の傾向が認められず、
当該河川は安定した河川ではなく、調査ごとに川底の状態が異なっております。

3 番目に、水質調査でございます。資料 3-3 をご覧ください。3-3-1 ページには調
査概要と測定方法及び調査時期を、次のページ、2 ページには図 1-1 として水質調査地点
位置図を、3-3-3 ページと 4 ページには調査結果となっております。

調査は、平成 31 年 2 月 7 日に実施しましたところ、田尻川にて環境基準値が定められて
いる項目は全て基準に適合しております。

次に、哺乳類調査でございます。資料 3-4 をご覧ください。3-4-1 ページに調査内
容及び調査期間を、次のページ、2 ページには図 1 として、調査地点位置図を、3-4-3
ページから 10 ページは調査結果となっております。また、11 ページから 16 ページは現
地写真となっております。

3-4-4 ページに戻りまして、哺乳類の調査は、平成 31 年 1 月 18 日から 1 月 29 日
まで実施いたしました。確認された哺乳類は、6 目 12 科 16 種の哺乳類が確認されてお
ります。確認された哺乳類は、主に平地から低山地にかけて、普通に生息する種で、森林環
境を好む種、または多様な環境に生育する種であり、事業区域及びその周辺に見られる森林環
境は、これらの種の生息環境として維持されていると考えられます。

3-4-9 ページの表 8 をご覧いただきまして、前回、平成 27 年度に初めて No. 13
の外来種のアライグマが確認されましたが、今回の調査にても足跡が確認されております。
また、今回初めて、No. 19 ジャコウネコ科のハクビシンの足跡が田尻川河川敷において
確認されました。

今後におきましても、生息状況に注意したいと考えております。

最後に、コウモリ類調査でございます。資料 3-5 をご覧ください。3-5-1 ページに

調査内容と調査期間を、次のページ、2ページには図1として調査地点位置図を、3-5-3ページから11ページには調査結果を、12ページから15ページは現地写真となっております。

3-5-3ページに戻りまして、調査は、平成31年2月25日に実施し、表3のとおり、確認されたコウモリ類は3種であり、キクガシラコウモリ141個体、モモジロコウモリ1個体、テングコウモリ3個体、合計145個体となっております。

次のページをお開きいただきまして、優先種はキクガシラコウモリが97%を占め、間歩別ではNo. 11の間歩にて99%を占める割合となっております。

これまでの調査と比較しますと、昨年度より確認された個体数は減少しているものの、全体的には増加傾向にあり、施設稼働によるコウモリ類の生息へ与える負の影響はなく、生息状況に大きな変化はないと考えられます。

環境モニタリング調査結果についてのご説明は以上です。

◎委員長

ありがとうございました。今、説明をいただきました環境モニタリングですが、何かご質問、あるいはご指摘の点、ございますでしょうか。

○委員

ありがとうございます。3-2-3ページのことで、ちょっと教えていただきたいんですけども、底質の調査なんですけど、表の2-1、分析結果とあって、含水率からずっと来て、亜硝酸性窒素まであるんですけど、この数値が時々、ボーンと増えたりしているんですけども、これは近くに坑道があるため、そういうふうになるというお話ですけども、ダイオキシンとかはそれには影響しないと思うんですけど、この坑道があることによっていろいろ数値が変わっていくというのは、どの項目なんですか。もしくは、どの項目が坑道による影響を受けないものなんですか、教えてください。

○事務局

まずは、ご質問の件なんですけども、底質の調査において、鉱石類ですね、やっぱりその影響を受けているのは、特に亜鉛なんかですと、常に同じような、このぐらいの数値が出ている傾向がございます。あと、ヒ素につきましても、鉱脈的にヒ素が地層的から、自然に由来、鉛についても、どうもこちらの田尻川のほう、この周辺、鉱山の関係で時々、この鉛については場所を限らずですね、たまにピンポイントで高い値が出ている状況でございます。

あと、工場とか生活排水ですね、で言いますと、やはり下のほうのアンモニア性窒素、硝酸性窒素、亜硝酸性窒素については、鉱山とは余り関係なく、どちらかと言ったら、普通の川に伴う汚れ、し尿というふうに見ております。

以上でございます。

○委員

できたら、全部教えてもらえたらありがたいんですけど。上から順番に、これは鉱山の関係があるとかないとか。でないと、数値見ても、私たちはわからないんで。

○事務局

CODにつきましては、河川、CODはもう、この一般的に汚れの指標ということで、アルキル水銀とかは鉱山とは関係ない重金属。全窒素、全リンというのは栄養源というんですか、自然界に存在するもの。あと鉛、カドミウム、ヒ素、クロムなどは鉱山、先ほど言っていた銅、亜鉛ですね、までは鉱山関係に関係するものだと。あと、シアン化合物、PCBは毒物系として、特にこれが鉱山にかかわるようなものではございません。酸化還元電位につきましては、土壌の好気性ですね、プラス側であれば好気性、マイナスが大きいと貧酸素状態とかいう指標になるようなものでございます。

主に底質で考えられる重金属、鉱山で考えられる重金属というのは3-2-4の表が主たるもので考えていただければいいかなと。

以上です。

○委員

ありがとうございました。じゃあ、この国崎クリーンセンターが稼働して、悪いものが出てきているというのをチェックするのは、このCODというのと、アルキル水素というのと、シアン化合物とPCBとダイオキシン類で、アンモニア性窒素もですかね。

大体、この5つを、クリーンセンターからひよっとしたら悪いものが出ているかもしれへんというふうに考えたらいいんですか。

○事務局

国崎クリーンセンターから出ていくのは下水道放流水とあと雨水排水、グラウンドの地下の浸透水ということになっておりますので、どちらかと言うと、国崎クリーンセンターとは直接かかわるようなものはないと考えております。

○委員

ありがとうございました。

◎委員長

よろしいでしょうか。他に何か。

○委員

19時10分になったら、ちょっと中座させていただきます。ちょっと先走りますが教

えてほしいんですけど、熔融スラグと熔融メタルの違いだけ、教えてもらえません。

○事務局

まず熔融炉で熔融します、この中に金属類ですね、それが含まれておりまして、有価物となる金属をまず取り出します。その中にはプラチナがあったり、金があったり、その分を熔融メタルとして売却しております。それで、熔融スラグというのは残った分ですね、これも一昨年度からですか、有価物として土木の資材として売却して、有効利用しております。

○委員

それは分離して出てくるんですか。

○事務局

磁選機とかで分けたりいたしております。

◎委員長

よろしいでしょうかね。他に何かございますでしょうか。

○委員

すみません、3-4-13ページの真ん中にありますムササビなんですけれども、私もムササビをちょっと追っかけていたことがあったんですが、ムササビの糞というのは正露丸みたいなもので、丸くて黒くてちっちゃいものと聞いていたんですけども、これ、つぶれたやつかもしれないけれど、このあたりでは大阪府でも、兵庫県のデータを見ても、ムササビが全然出てきていないところなんですけど、この糞だけでムササビと決められたのは、ちょっとどうなんだろうかと思ひまして。確かに、この写真では、とてもわかりにくいんですけど。

○事務局

調査会社のオオバさんのほうから一言お話ししていただきたいと思ひます。

○(株)オオバ

オオバでございます。ムササビ、おっしゃるとおりで、サイコロ状の、小さい丸い球状のものがムササビの糞となりますけれども、ご指摘のとおり、写真の糞はつぶれております。ちょっと前日に降った雨が原因やと思うんですけども、環境的にスギの大きな大木があそこ一部ありまして、いてもおかしくないなと思ひしております、あそこには。で、スギの下で確認されて、こういった粒状の糞ということでムササビと判断しました。

◎委員長

よろしいですか。

○委員

また、いろいろ調べてもらえれば、ここで見つかるというのはすごいことやと思うので、

よろしく申し上げます。

◎委員長

はい、ありがとうございました。他に何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、環境影響調査結果については以上で終わりとさせていただきたいと思います。

それぞれ、議事の3番目ですが、平成30年度ダイオキシン類総排出量についてということで、こちら説明のほう、よろしく申し上げます。

○事務局

それでは、平成30年度ダイオキシン類総排出量について、ご説明させていただきます。資料4をご覧ください。

まず、4-1の表に、平成30年度に53,094.64tのごみを焼却した結果生じたダイオキシン類総排出量を記載しております。

排ガス量には、気体として排出した量を示しており、表中2段目にダイオキシン類排出量合計を、最下段にはごみ1t当たりのダイオキシン類排出量を示しております。

処分対象物には、固体として搬出した量を示しております。固体の種類として、熔融飛灰固化物、大塊物、磁性灰、熔融スラグ、熔融メタルの5種類ごとにダイオキシン類の排出量を示しております。

排水には、液体として排出した量を示しております。

これらを合計いたしますと、平成30年度のごみ1t当たりのダイオキシン類総排出量は、合計欄最下段に記載しております1,2402 $\mu\text{g}/\text{t}$ となり、総量規制値2 $\mu\text{g}/\text{t}$ 以下でございますので、基準を達成しております。

次のページ、4-2には、内訳を示しております。

表に示していますとおり、四半期ごとにダイオキシン類排出量を求め、合計したものを先ほどの年間値としております。

次に、4-3ページでございます。活性炭吸着塔内のダイオキシン類吸着量を示しております。これは、総量規制値の対象外ではありますが、事業者が測定したものを参考値として別途管理するものでございます。

活性炭に吸着されましたダイオキシン類の量は合計で、18,521.7 μg 、ごみ1t当たりでは、0.3578 μg を吸着したことになります。

続いて、4-4ページをお開きください。「平成30年度ダイオキシン類の排出・移動量」として、排出・移動物質の①排ガスから⑦の熔融メタルまでの値と、⑧使用済み活性炭を一覧表にしたものでございます。

合計欄の()内の値1,5980は、ダイオキシン類総排出量に活性炭に吸着された分を

含めた、ごみ1 t当たりのダイオキシン類排出・移動量となっております。

次に、5ページと6ページには、排ガス処理中における活性炭吸着塔の位置と塔内のどの位置でサンプリングをしたのかを示しております。

平成30年度ダイオキシン類総排出量についてのご説明は以上でございます。

◎委員長

はい、ありがとうございました。ただいま説明をいただきましたが、ダイオキシン類の排出量につきまして、何かご質問、あるいはご指摘の点、ございますでしょうか。特にはございませんでしょうか。

○委員

毎年この調査をしていただいております、非常に貴重なデータであります。で、活性炭の部分でのダイオキシンの捕集量ですが、昨年よりも今年のほうが昨年よりも3倍ぐらい増えておまして、もちろん煙突から出るものは、ごくわずかでありますので、どうってことではないんですけども、焼却の後の再合成でのダイオキシンの生成というのは、少し増えているのかもしれないので、清掃ですとか気をつけていらっしゃると思いますけども、こういった累積的なデータで、チェックをするということは非常に良いことかと思っておりますので、ぜひとも継続していただきたいと思っております。

◎委員長

はい、ありがとうございます。何か、他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

○委員

総排出量とか、1 t当たりの吸着量は全て $\mu\text{g}/\text{t}$ とかになっているんですけども、これ、TEQ換算したダイオキシン濃度ということでよろしいのでしょうか。

○事務局

TEQ換算した数値をもとに掛けて、排出量を求めている形です。

○委員

本来なら、 $\mu\text{g-TEQ}/\text{t}$ になるんですよね。言っている意味がわかりませんか。表記の仕方が、 μg というんじゃなくて、 $\mu\text{g-TEQ}/\text{t}$ 、1 t当たりどれだけのTEQ換算したダイオキシンが出ているかというのを計算したというふうに表記するべきではないでしょうかというふうに提言しているだけでね。

今すぐお答えが出ないようですから、また後日でも結構ですので。

◎委員長

それでは、今の件は、また調べていただいて回答していただくということで、よろしいでしょうか。

+

それでは、今の件は一応ペンディングということですが、それ以外の件、何かございますでしょうか。議事のほう、これで一応終わりなんです、全般通じて何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、一応、議事のほうは閉じさせていただきます。それでは、あとはその他で何かございますでしょうか。

○事務局

その他で、1点ご報告がございます。環境保全委員会委員の募集についての件でございます。

現在、第7期の委員が就任されておりますが、この任期が、この9月30日までとなっております。この関係で、第8期、次の委員を決めていく必要がございます。

第8期の組合区域住民の委員ということで6名を、7月25日に発行いたします広報紙「森の泉」を初め、組合ホームページ等を通じまして、募集をしていきたいというふうに考えております。

応募の締め切りは8月16日、金曜日で、郵送ないしは持参ということで、必着ということにしております。

以上で委員の募集につきまして、ご報告をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

◎委員長

はい、ありがとうございます。それでは、全般ほか、皆様のほうから何か具体的に、これで全部、議事は終わったこととなりますので。なければ、これで今日は終わりにさせていただきますが、よろしいでしょうか。

それでは、これで第57回の環境保全委員会のほう、閉じさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

委員の皆様におかれましては、慎重かつ円滑にご審議いただきまして、ありがとうございました。これをもちまして、第57回の委員会を終了させていただきます。

19時20分 閉会